

一枚の写真

信楽 慧



先日、祖父信楽峻磨の六角会館での浄土和讃講話の録音テープを元に『浄土和讃講話聞き書き』を出版いただくにあたり、そこに祖父との思い出を書かせていただきました。そこで、今回はその祖父との思い出を引用

安楽寺寺報

閑光

第108号 歡喜会号

発行所
〒737-0054
吳市上山田町2-2-8
安楽寺
TEL: 0823-21-7561

真を載せています。『親鸞聖人の教え、浄土真宗を学ぶとは、何よりも、その教えにふれることを通して、自身が少しづつ育てられてゆくことだと思えます。』これは祖父の著書「真宗入門」の最初の言葉です。私はこれが仏教の本質を表していると思います。仏教とは「自らを省みて、見えていなかった部分に気づき、自己成長していくことで苦しみが少なくなっていく」もの。それを祖父は気づかせてくれました。小さい頃、祖父と一緒に寝ていた時、祖父はいつも足を組んで寝ていました。そして、足が痺れたら、起きて勉強をしていました。祖父はそれほど勤勉でしたが、私に「仏教の勉強をしろ」とは言いませんでした。ただ、今になってなぜ祖父が勉強しろと言わなかったのか分かった気がします。それは、仏教は生き方、論理である、それを実感を持って納得するためには「タイミング」が重要だと祖父は思っていたからなのかと思います。精神的に余裕がない時も元気な時もある、人生経験によって仏教の話に納得できるかどうか変わってきます。だから祖父は、いつかご縁によって知ることがで

きるから、子どもの私には「今は勉強しなくていい」と言ったのかと思います。そして、有り難いことに今、勉強をさせていただく機会に恵まれ、少しずつ実感を伴って仏教、祖父の話を理解することができてきました。この教えこそが人生において本当に大切なことであると知ることができました。今回私がこの話をさせていただいた理由は、自分が救われたからこそ、ぜひこの祖父の話を多くの方に知ってほしいという思いと、今は腑に落ちなくても人生のどこかで必ず納得できる「タイミング」が来ると思うからこそ、時間をおいて何度も勉強していただきたいという思いから話をさせていただきました。寄稿した文章はまだ続きますが、私はこの話を書いていて、祖父の言っていた一つの言葉が思い浮かびました。『たまたま行信を獲ば、遠く宿縁を慶べ』私の人生はこれに尽きると思いましたが。私は大学受験に失敗しましたが、しかし受験の時は失敗したと思いましたが、失敗したから祖父と一緒に京都で暮らし、大学院の時に得度ができました。第一志望に行っていれば大学で得度ができなかったかもしれないし、今のうちに仏教に触れていないかもしれない。その時々では失敗した、縁がなかった、と思

安楽寺マンガ通信

その58 信楽めぐみ

無縁遺骨って聞いた事ありますか？
無縁遺骨とは、引き取り手のない遺骨のことを指します。



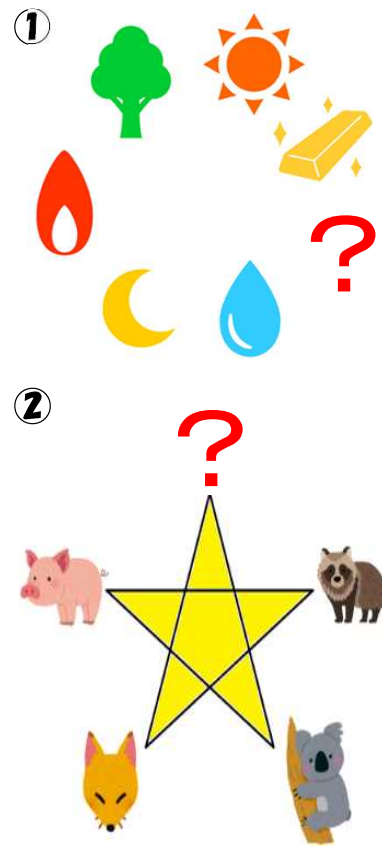
近年、なくなつた方に、身寄りがない場合や、身寄りがあつても親族が火葬や埋葬を行うケースが非常に増えています。
約5万件/
皆さんは仏教とご縁があり、身近な話ではないかもしれませんが、ここ10年で約1万件も増えており、年間で約5万件もの無縁遺骨が存在します。



この問題は、核家族化、独居老人、晩婚化、少子化、宗教離れなど今日日本を取り巻くあらゆる問題とつながっています。
私は、お寺で生まれたご縁もあり、無縁遺骨ということすら知りませんでした。私の中ではお骨がご墓に入ることは当たり前です。浄土真宗では、お墓とは「極楽浄土へ旅立つた故人を想いながら阿彌陀様への信仰心を新たに、仏縁を結ぶ場所」といわれています。



ちょっと脳トシ 「？」に入るのは何でしょう？



今号は、「ご縁」について話している記事が多くありました。「ご縁」としても良い縁ばかりではないと思うかもしれませんが、一面でもあるように、今までの「ご縁」により今がある。これもまた「ご縁」です。良い縁も悪い縁も自分の「ご縁」です。一期一会という言葉があります。常に出会いを大切にすることを心掛けようと思改めました。夏の暑い時期に差し掛かりお盆参りも始まります。先祖が私たちを仏縁に合せてくださいます。こういった良いご縁を大切にいただければと思います。めぐみ

この問題は、死後の話なので、ご自身では気をつけようのないことでもありますが、一人でも多くの方が無縁遺骨とならぬよう、今一度自分の死について考えるきっかけとなればと思います。



編集後記
（9月11日）
（9月27日）
（9月27日）

お念佛のしずく

教えというもの…



教えというものの、象徴というものは、この世俗、この世を超えた、真実、究極的な価値を指し示しているのですが、それは逆に、この世を超えたもの、この世俗に向かって届いてきたもの、だともいえるわけです。

先ほど、タターガタ（如去・如来）ということについて、ゴータマ・ブツダは真如に向かってこちらから行った、如去したのだが、ゴータマを慕う在家の信者たちは、ゴータマは私たちのために向こうから如来した。やってきたというようにとらえたという話をしました。その話には、ここにも重なってくるわけです。したがって、仏教が明らかにする教え、いまは阿弥陀仏の話であり、その象徴として、世俗の中にある、世俗を超えた究極的な価値、真実そのものを指し示している。しかし、それはまた、月そのものとしての真実が、この世俗に向かって働きかけてきたものでもあって、そういう如去と如来の両方の方向を同時に持っているともいえるわけであり、

「真宗の大意」

縁の大切さ

信楽 晃仁

鎌倉中期に作られた仏教説話集である『沙石集』（しやせきしゅう）にこのような話が残っています。これは、覚海という真言宗の僧が、自分の前世を知りたくて、弘法大師に祈願したところ、このようなお告げがあったというのです。

「初は天王寺の西の海に、少き蛤にてありしが、自然に浪に打寄せられて、浜にありしを幼き者は取りて、金堂の前に持ち行く。舍利讃嘆の声を聞きし故に、死して後、天王寺の犬に生る。常々経陀羅尼の声を聞きし故に牛に生る。大

かもしれませんが、『縁がないのではなくそういう縁があった』ということだと思えます。私は「第一志望に受からなかった縁があった」ということです。その結果、色んな方が繋いでくれた縁によって今があります。

生きていくと失敗したなど、よく思っています。『たまたま行信を獲ば遠く宿縁を慶べ』という言葉の片隅においておくと、過去を後悔するのではなく、縁に感謝して、少し穏やかに生きることができるとは思いません。

般若の料紙を負わせたりし故に馬に生る。熊野詣の者乗せて参詣せし故に、柴燈をたく者と生れ、常に火の光を以て人を照らす故に、智慧の業、漸く薫じて、奥ノ院の承仕と生れ、三密の行法を常に耳に触れ、目に見る薫習の故に今検校と生れたり。」

「覚海は七世の昔、蛤であった。天王寺の西の海にあった蛤を、子どもが拾って金堂の前に持って行った。そして蛤が仏教と出会った縁で、次には犬に生まれた。この犬もお経、陀羅尼を聞いた縁で、次に牛に生まれた。この牛が『大般若経』を書写する紙を運んだ縁で馬に生まれかわり、この馬が熊野への参詣客を乗せた縁で、柴燈燬摩を焚く行者に生まれかわった。そして次にこの者が高野山の奥の院で雑役に従事する僧に生まれかわり、最後に検校（寺社の寺務の総官）に生まれかわった。」というのです。

如何でしょうか。仏教には、前世のいのちが語られる物語がたくさんあります。お釈迦様のジャータカ（前生譚）もそうですし、親鸞聖人も



「世々生々」という言葉で、何度も生まれかわってきたと言われます。そこそこで仏法との縁の大切さが説かれます。

コロナ禍が一段落して、仏教婦人会を再開致しました。今は「65歳からの仏教」という本を読んでいます。婦人会とはいっても現代は50代という性の多様性が、国会でも論議される時代です。老若男女にかかわらず、どなたでもご参加下さい。ご一緒に縁に会いましょう。

七月の婦人会ではお釈迦様が覚られた縁起（因縁生起）ということについて学びました。全てのこと、因（種）があり、それに縁（作用）が備わって、生起（結果）するということです。私たちの命も、この真理から外れるものではありません。地獄の命の私かも知れませんが、それに仏法の縁が働けば私の命になることが誓われています。

私たちの一番大切な縁は、お念仏に会うことです。犬や猫、牛や馬でも、仏法に会う命になるのです。ましてや人間が念仏に会うならば、この度仏になるのだという教えに、私たちは今出会えていることありがたさを自覚したいものです。

毎日のお参りには空（愛犬）と一緒に参ります。お経に会い、お念仏に会い、縁を結んでおけば、いずれ人間に生まれ、仏に成る道が開けるはずで。

お盆も、先祖が私を仏法に会わせてくれた大切な縁です。どうぞお参り下さい。

暮らしの中の仏教語

「あばた」

「あばたもえくぼ」という諺を、ご存じですか。愛する者には、あばたさえもえくぼにみえるという、ほほえましい例えです。こわいと恐れている人の目には、枯れ尾花もゆうれいに見えるという「ゆうれいの正体見たり枯れ尾花」の類いです。

この「あばた」とは、インドの言葉「アルブダ」の音写で、腫れ物とか水泡という意味で、経典にも出てくる言葉です。

仏教で説かれた八寒地獄の一つに「頰浮陀」（あぶだ）地獄があります。嘘をついたり、悪口を言ったり、聖者を軽蔑する言葉を吐いた者が落ちる地獄です。

この地獄に落ちると、極寒にさらされるため、身体中に腫れ物ができ、そのため、大変苦しむといわれています。

このアルブダ（頰浮陀）があばたととなり、天然痘のあとに残る痕跡の意味となりました。

現代では、幸いなことに、天然痘は種痘のおかげで無くなってきましたが、「あばたもえくぼ」に見える心は、ますます盛んなようです。

安楽寺法要案内

--彼岸会法要・聴石忌--

日時 9月24日(日)朝座・昼座
講師 広島市 法光寺 築田 哲雄 先生
講題 師よりの頂きもの

--顕真・永代経法要--

日時 10月21日(土)朝座・昼座
講師 阿賀 宝徳寺 平原 弘史 先生
講題 仏智不思議

--報恩講法要--

日時 11月25日(土)朝座・昼座
講師 広島市 常念寺 桑門 真昭 先生
講題 平生業成の行人

--仏教婦人会--

日時 10月16日(月) 13:30~15:00

時間 朝座10:00~・昼座13:00~

会場 安楽寺本堂

※新型コロナウイルスが感染拡大した場合、急遽中止する場合があります。